

「第 106 回 日本泌尿器科学会総会 男女共同参画委員会シンポジウム」

会長：京都大学 小川 修教授

開催日時：平成 30 年 4 月 20 日（金）10:00～11:30

『泌尿器科医の実態・悩み・苦しみそして希望～性別・年齢を超えたダイバーシティを目指して』

座長 山本新吾先生（兵庫医科大学）

佐々木ひと美先生（藤田保健衛生大学）

1. 松下千枝先生（大阪暁明館病院、日本泌尿器科学会男女共同参画委員会）
“泌尿器科医アンケート 2017 から見えた泌尿器科医師の現状”
2. 前田佳子先生（昭和大学）
“公益社団法人日本女医会からの提言”
3. 武川恵子氏（内閣府男女共同参画局長）
“我が国におけるダイバーシティの現状と方向性について”

第 106 回日本泌尿器科学会総会（国立京都国際会館）において開催された男女共同参画シンポジウムを終えて



左から、鈴木啓悦委員長、松下千枝委員、武川恵子内閣府男女共同参画局局长、前田佳子委員、佐々木ひと美委員

男女共同参画委員会シンポジウム 泌尿器科医の実態・悩み・苦しみそして希望 ～性別・年齢を超えたダイバーシティを目指して

2018 年 4 月 20 日 (金) 10:00-11:30 第 7 会場 | 国立京都国際会館 1F Room C-1

座長：山本 新吾 (兵庫医科大学)

座長：佐々木 ひと美 (藤田保健衛生大学)

泌尿器科医アンケート 2017 から見た泌尿器科医師の現状

松下 千枝^{1,2}、佐々木 ひと美²、那須 保友²、藤井 靖久²、山本 新吾²、山本 恭代²、高橋 さゆり²、西田 幸代²、小林 知子²、樋口 はるか²、小島 聡子²、前田 佳子²、鈴木 啓悦²

1:大阪明館病院 泌尿器科、2:日本泌尿器科学会男女共同参画委員会

泌尿器科における女性医師の割合は、2005 年に 3.1 % と非常に少数であったが、現在は 7.2 % に増加しており、泌尿器科学会入会者の実に 6 分の 1 が女性となっている状況である。これまでに日本泌尿器科学会男女共同参画委員会では、増加する女性泌尿器科医師の実態調査を目的に 2010 年および 2014 年に女性泌尿器科医を対象にアンケートを行い、女性差別やセクシャル・ハラスメント、出産・育児に伴う問題などを調査してきた。しかし、これは女性医師のみに対するアンケートであり、泌尿器科の現状を反映しているとはいいがたく、また、男性医師の就労環境、家庭環境の変遷を鑑みると、女性医師・男性医師の両者における現状ならびに泌尿器科へのニーズの把握は急務と考えられた。

そこで、男女共同参画委員会により 2017 年 2 月男女ともに対象とした泌尿器科医現状調査アンケート調査を実施した。対象は全女性医師 575 名、無作為に抽出した男性医師 400 名および各大学教授 78 名で、回収率は女性医師 56.6 %、男性医師 52.3 %、各大学教授 59 % であった。育児休業・介護休業をとってもポストは保障されるべきと答えたのは 31.3 %、48 % はそれまでの評価によると回答した。働き方改革は日本全体における急務であるが、泌尿器科らしさを維持しながら、より働きやすい環境にしていくために必要なものは何か。アンケートから見た泌尿器科医の現状を報告する。

男女共同参画委員会シンポジウム 泌尿器科医の実態・悩み・苦しみそして希望 ～性別・年齢を超えたダイバーシティを目指して

2018 年 4 月 20 日（金） 10:00-11:30 第 7 会場 | 国立京都国際会館 1F Room C-1

座長：山本 新吾（兵庫医科大学）

座長：佐々木 ひと美（藤田保健衛生大学）

公益社団法人日本女医会からの提言

前田 佳子¹

1:昭和大学医学部 泌尿器科学講座

2017 年 3 月より公益社団法人日本女医会の会長を務めさせていただいております。日本女医会は 116 年前の 1902 年に前田園子先生が「女性医師の社会的地位向上と相互研鑽」を理念として設立いたしました。まさに男女共同参画の走りであったと思います。1913 年には会誌を創刊、1919 年には国際女医会の設立に参画、国内はもちろん海外に向けても様々な社会活動を行ってきました。2012 年には公益社団法人に認定され、各委員会が中心になって公益事業に力を注いでおります。

そのうちのひとつである日本女医会男女共同参画事業委員会は 2006 年に女性医師支援委員会として設立され、2012 年から現在の名称に改めましたが、様々な視点から女学生や女性医師に就労・就労継続そしてキャリア形成を支援するシンポジウムを開催して参りました。医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム第 1 1 回までの内容を振り返るとともに、今後の男女共同参画のあり方について提言をさせていただきたいと思っております。



男女共同参画委員会シンポジウム 泌尿器科医の実態・悩み・苦しみそして希望 ～性別・年齢を超えたダイバーシティを目指して

2018 年 4 月 20 日（金） 10:00-11:30 第 7 会場 | 国立京都国際会館 1F Room C-1

座長：山本 新吾（兵庫医科大学）

座長：佐々木 ひと美（藤田保健衛生大学）

我が国におけるダイバーシティの現状と方向性について

武川 恵子¹、松下 千枝¹

1:内閣府 男女共同参画局

日本の人口は減少局面に入って早や 10 年余。生産年齢人口は 1995 年をピークにして既に 1000 万人以上減少した。その中、アベノミクス下の 5 年で就業人口は 250 万人増加したが、うち女性が 200 万人と 8 割を占める。女性の活躍なくして今後の日本は少子高齢化時代を乗り切ることはいかぬ。医師の世界も同様で、20 代で新たに産婦人科になる人の 3 分の 2 は女性、小児科になる人の半分以上が女性だ。女性医師も男性医師も、家族責任と両立し、無理なく継続就業できる働き方改革を行うことは、今後の日本の持続可能な医療体制を構築する上で喫緊の課題である。